

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2025年7月31日

(宛先)
滋賀県知事

提出者

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)
大阪府大阪市北区堂島二丁目一番九号

氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)
利昌工業株式会社 代表取締役社長 利倉 幹央

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項 → 第25条第4項
第27条第1項 → 第27条第2項において準用する同条例
第26条第1項
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項

の規定に基づき、
事業者行動計画を策定 (変更)
事業者行動報告書を作成
したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	利昌工業株式会社 代表取締役社長 利倉 幹央
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	大阪府大阪市北区堂島二丁目一番九号

1 事業者の概要

事業所の名称	利昌工業株式会社 湖南工場					
事業所の所在地	滋賀県 湖南市 高松町二番四号					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	1	8	3	1	電気機械器具用プラスチック製品製造業(加工業を除く)
事業の概要	電気絶縁材料および工業材料の製造					
従業員の数	160	人	作業時間	24	時間/日	
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者				
	<input type="checkbox"/>	従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者				
	<input type="checkbox"/>	任意提出事業者				
主要な設備	ボイラ	8	台	熱源設備	47	台
	コンプレッサ	31	台	空気調和設備	27	台
				照明設備	1377	台
				その他		

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始 年度	2022	年度	報告対象年度	2024	年度
	終了 年度	2026	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

計画の (内容・実施状況)	別添のとおり
------------------	--------

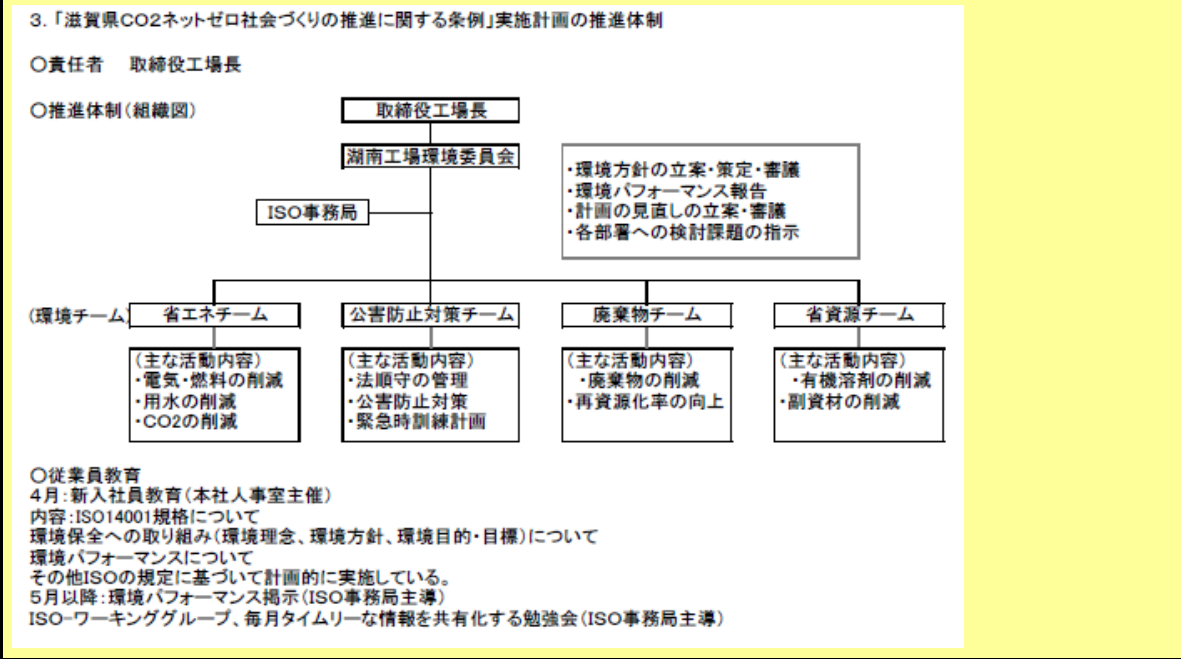
注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

【環境理念】
 利昌工業株式会社は、健全な全ての事業活動において、技術力を活用して、地域環境及び地球環境の保全と向上を図り、平和な社会に貢献することを環境理念とする。

【環境方針】
 (1)当社の事業活動、製品及びサービスが、環境に与える影響を的確に捉え、技術的・経済的に可能な範囲で環境保全活動に取り組み、継続的改善に努める。
 (2)環境に関する法律、県条例、及び当工場が同意した協定を遵守するとともに、可能な範囲で自主基準を定め、環境汚染の予防に努める。
 (3)RoHS指令等の海外規制並びに顧客要請による製品含有禁止物質に関しては、原材料・部品等についてのグリーン購入を推進し、生産工程において適正な管理を実施する。
 (4)当社の活動、製品及びサービスが関わる環境影響の中で、著しい環境側面に関連する項目及び以下の項目を環境目的・目標の重要テーマとして掲げ、全員参加で取り組み、見直しを図る。
 ①エネルギー、CO₂：電力及び燃料の使用量を減らし、CO₂排出量の削減を図る。
 ②廃棄物：廃プラスチック、汚泥、廃油等の廃棄物の削減、リサイクルを図る。
 ③揮発性有機溶剤：製造工程で使用する揮発性有機溶剤の削減を図る。
 ④輸送費・梱包材：輸送費・梱包材の削減、再使用、リサイクルを図る。
 ⑤製品：製品が環境に与える負荷を低減するために、製品の開発・設計段階から製品アセスメントを実施する。
 この環境方針は職場に掲示して全従業員に周知させるとともに、社外にも公表する。

2 取組の推進体制



3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

環境保全活動の一環として2002年より大気環境への負荷低減に積極的な取り組みを行っている。
 (主な取組み)

- ・ ボイラー燃料の重油から都市ガスへの転換
- ・ ボイラー廃熱の一部回収
- ・ 廃熱ボイラー付属ファンの一部インバーター化
- ・ 自燃式脱臭炉の導入
- ・ 事務所への高効率Hf蛍光灯の一部導入
- ・ 照明設備の使用していない区画の消灯(プルスイッチ付き蛍光灯の採用)
- ・ 廃棄熱硬化性樹脂積層板のRPF化
- ・ 品質改善(不良率低減)による廃棄物削減、生産効率向上の推進
- ・ 利用の少ない通路(見学通路)の照明をセンサータイプに変更
- ・ 製造現場高天井照明を水銀灯からLED照明に変更の推進
- ・ ファンモーター、ポンプモーターのインバーター化の推進
- ・ 老朽化した空調を最新型へ更新の推進
- ・ 工場内の外灯を水銀灯からHIDランプに更新
- ・ 工場現場事務所、事務所、食堂、会議室の蛍光灯をLED照明に更新の推進
- ・ LED基板用白色基板の開発・製造・販売

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	運用改善	空調機熱交換器メンテナンスによる性能(効率)維持	2022年～2026年	業者による室内機分解・薬剤洗浄2台実施
2	設備導入	製造設備ファン、ポンプ等の高出力交流モーターのインバーター化	2022年～2026年	インバーター3台稟議起案作成
3	設備導入	工場内照明器具について省エネ効果の高い照明設備への更新	2022年～2026年	水銀灯および防爆型照明のLED化115台実施
4	設備導入	老朽化した空調機を高効率タイプへの更新の検討	2022年～2026年	実績なし
5	設備導入	蓄熱式脱臭炉採用の検討	2022年～2026年	設置業者による見積・工事計画作成済み

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1		該当なし		
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価																				
<p>上記(1)の取組等により、2021年度を基準年度とし、以下の数値目標を目指します。</p> <p>原単位(温室効果ガス排出量)／生産金額で毎年1%削減</p> <p>なお、原単位の考え方は以下のとおりです。 温室効果ガス排出量は製品の生産量に大きく影響を受けるため、生産金額を原単位の指標(分母)として設定しました。</p>	<p>計画した取り組みについては下記のアクションをとりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 運用対策については、生産金額が前年比98%と減少した影響で効果も減ってしまったものと評価します。 設備導入対策については、計画はしたものの実施には至っていません。 設備導入対策については、水銀灯と防爆照明、合計115台をLED化工事しました。 設備導入対策については、実績なし。 設備導入対策については導入計画まで進みましたが昨年度の進捗なし。 <p>2024年度のCO₂排出量原単位推移は下記であり、目標の前年比1%以上改善は未達成でした。未達成の原因としては受注減による生産金額が前年比98%と減少したことによる連続生産の減少、エネルギー効率の良いテープ材関連の生産減少、ワニス工場で発生した蒸気バルブ内部での蒸気漏れによるエネルギーロスがありました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>原単位</th> <th>前年比(%)</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2021年度</td> <td>1.258</td> <td>93.3</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2022年度</td> <td>1.229</td> <td>97.7</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2023年度</td> <td>1.146</td> <td>93.3</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2024年度</td> <td>1.255</td> <td>109.6</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>		原単位	前年比(%)	評価	2021年度	1.258	93.3	○	2022年度	1.229	97.7	○	2023年度	1.146	93.3	○	2024年度	1.255	109.6	×
	原単位	前年比(%)	評価																		
2021年度	1.258	93.3	○																		
2022年度	1.229	97.7	○																		
2023年度	1.146	93.3	○																		
2024年度	1.255	109.6	×																		

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告					
		(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	()年度	()年度	
原油換算エネルギー使用量	kL	4,536	3,814	3,274	3,582		
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	8,684	7,369	5,715	6,839		
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	8,684	7,369	5,715	6,839		
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	0	0	0	0		
CH ₄	t-CO ₂						
N ₂ O	t-CO ₂						
HFCs	t-CO ₂						
PFCs	t-CO ₂						
SF ₆	t-CO ₂						
NF ₃	t-CO ₂						
エネルギー等原単位の推移		0.657	0.648	0.628	0.657		

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1			
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	工場建屋根への太陽光発電システム導入検討
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	0 kW	水力・小水力	0 kW	地熱	0 kW
太陽熱	0 kW	バイオマス	0 kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
		(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	()年度	()年度
再エネ電気設備での発電量	kWh	0	0	0		
上記のうち自家消費量	kWh	0	0	0		

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO₂ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況
湖南工場では、LED照明用のモジュール基板に使用される白色基板を生産しています。 主に白熱電球に代わるLED電球に使用される白色積層基板に使用されます。 白熱電球60Wに対してLED電球では約9Wの消費電力になるため、電力を約85%節約することができるため、低炭素社会づくりに貢献しています。	2024年度の売上面積は8,839㎡となりました。白色基板は各社競合となっているため、価格競争が厳しい面があるため、材料開発、工場での製造対応、営業の売り込みに鋭意努めておりますが、昨年売上面積は前年比89%となりました。 今後とも材料開発、売り込みを推進していく所存です。
	CO ₂ 削減貢献量
	1,480.0 t-CO ₂

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方
目標：当工場生産するLED照明用白色基板の継続的生産を推進する(高機能白色基板開発を含む)。

(3) 上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価およびCO₂削減貢献量の算出根拠

目標の進捗に対する自己評価
売上面積は前年比89%と11%減少でした。LED電球はこれからも省エネには欠かせない技術ではありますが、市場での汎用品への更新は相当進んでおり、今後は更に性能を特化したものへの対応が必要となっており、その部材である高機能白色基板の開発、拡販を更に推し進めていく予定です。
CO ₂ 削減貢献量の算出根拠
パシフィックコンサルタンツ様のご協力によって、この活動によるCO ₂ 排出量削減効果を算定しました。

7 その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに資する取組

(1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	()年度	()年度
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO ₂	8,684	7,369	5,715	6,839		
エネルギー起源CO ₂ 【調整後排出係数】	t-CO ₂	8,684	7,297				
【調整後排出係数】	kg-CO ₂ /kWh	0.474	0.474	0.434	0.419		
特記事項	2023年7月より九電みらいエナジーから関西電力(株)に契約電力会社を 変更						

(2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	()年度	()年度
グリーン証書の購 入	t-CO ₂	0	0	0	0		
クレジットの購入	t-CO ₂	0	0	0	0		
特記事項							

(3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケ ジュール	
1	マイカー 通勤抑制	公共交通機関、自転車の利用を増やし従業員のマイ カー通勤を減らす。	2022年～ 2026年	自転車置場を増設したことでス ペース不足感はなくなった。
2	工場間物流	尼崎工場、湖南工場、滋賀工場の3工場間で量を把 握し工場間の移送便を減らす。	2022年～ 2026年	工場間移送便の計画を適切 に運用した
3				

(4) 業務で使用する車輛の脱炭素化の取組

	項目	単位	計画開始年 度前年度の 保有台数	実績報告				
				(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	()年度	()年度
	保有車輛の数	台	2	2	2	2		
	上記のうち 次世代自動車の数	台	0	0	0	0		
	特記事項							

(5) その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組内容	実施 スケジュール	
1	グリーン購入	環境方針に基づき、原材料・部品・包装材・事務用品など のグリーン購入を推進する。	2022年～ 2026年	原材料認定登録リストを 作成して資材購入管理
2	3R	廃棄物の分別、再資源化を促進し、2001年基準 (17.3%)に対して2026年までに90.0%以上の再資 源化率を目指す。	2022年～ 2026年	2024年度再資源化率 88.2%
3	その他	従業員に対する環境教育の推進	2022年～ 2026年	ISO14001を取得し、 従業員への環境教育を 計画的に実施していま す。1回/年の外部審査 および1回/年の内部監 査で検証しています。
4				
5				